

鶴岡市総合計画審議会 第2回市民文教専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年6月1日(金) 午前9時30分から
- 会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター 大ホール
- 委員発言の概要

着眼点に対する施策の方向について

挑戦でき、人をひきつけ投資を呼び込める環境の整備

- ・鶴岡市には国内外に誇れる産業等が少ないと思う。今は先端研などが新しい事業を行っていて見事だと思う。鶴岡市では先端研を応援すべき。
- ・一般の方々、県外からわざわざいらした方でも、スポーツ施設等の使用料金や使用状況をいつでもどこでも誰でも使えるということを市民の方、またネットでも広く知っていただけたらいい。
- ・企業誘致のための税の軽減や用地価格の厚遇等の制度の総点検と見直し、どのような投資が鶴岡市にとって必要かを検討すべき。
- ・人手不足の対応として、例えば、農業、介護、サービス業などで、ロボット、AI、ドローンの導入を進めてみたらどうか。

人づくりによる人材の確保

- ・今、地域活動のコーディネーター役として地域と行政の結び役としての役割が重要になってきている。コミュニティセンターと地区担当職員が連携して地域の課題解決、地域の組織運営支援に取り組んでいくべき。人材確保という点については、その人の生活の保障が必要である。コミュニティセンターが地域の拠点として、住民の拠りどころとして活動できるような小さな拠点づくりを活用しながら行政支援が必要になると思う。
- ・人づくりは100年の計、今まで地道に行ってきた鶴岡独自の教育があるので、新たに違うことをするのはではなく、地道な活動（致道館教育など）の継続が大事だと感じている。あらたな取り組みが必要かどうかは疑問である。
- ・市内だけでなく郊外地の地域づくりがマンネリ化していると感じる。若者の意識が多様化している中で自治組織のさらなる充実が必要。具体的には思いつかないが、地区担当職員がいるので連携していくのがいいのではないかな。
- ・魅力ある人材を作っても外部に流出してしまうのではないかな。優秀な人材が活躍できる場所が少ない。どのような人材を育成するのが地域にとって良いのか考えるべきだし、基盤産業で優秀な人材が欲しいというのがあるのではないかな。後継者も育てていくべき。
- ・人づくりは、学校教育に負うところが大きい。現在の学校は、これまでの指導に加えて、知識を活用する能力の向上、英語教育、道徳教育、情報教育、プログラミング教育等々、多種多様な教育への対応が求められるとともに、発達障がいの子どもやその保護者対応など、山積する教育課題に直面して

いる。働き方改革の旗は振られているものの抜本的な改革の方向性は全く見えていない。学校教育支援員、外国語サポーター等の人的な支援の拡充がなければ、正常な学校運営が出来ない。

交流人口を増やす施策の実施

- ・市街地へ中古住宅の賃貸化、産業の発展、飛行機代を減らすなど住みやすく、鶴岡市内に留まってくれるような街づくりにしていくのがいいのでは。
- ・高速道路や鉄道などといった、交通網の早期の整備が必要、早い実現を。鶴岡市の独自の産業が振興し発展することで交流人口も増えるのでは。
- ・高齢者の移住受け入れについても良く考えるべきではないか。介護の問題も発生してくると思われるので、将来超高齢化社会になってしまう。現在の高齢者はわりと生活に余裕を持っている人が多い。非常に満たされている中で、これ以上さらに良くしていかなければならないのか。
- ・もう少し文化財活用について考えていただきたい。今後国際化ということもあるので、高速交通、ネットワークの充実、2500mの滑走路の整備とか山形自動車道の全線開通、こういったものも観光の振興につながるだろうし、ますます青少年のここにいたい、戻ってきたいという気持ちにつながると思う。
- ・二つの日本遺産である、「出羽三山」、「松ヶ岡」を両輪に鶴岡の魅力を最大限強調する必要がある。
- ・魅力的な観光、既存の遺産はもちろん生かしつつ、新たなアクティビティ、大自然を生かしたレジャーを創設する。
- ・タクト鶴岡、アートフォーラムの事業の充実を図るとともに、市民が気軽に活用できるようにしてほしい。

若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築

- ・高齢者と言う文言が大変気になった。鶴岡でも高齢化は進んでいるし、今問題になっているのは団塊の世代の問題もあるし、健康寿命の推進を図っていくというのがある。具体的にどのようにするかというと生涯スポーツの推進に力を入れるべきだと考えている。地域のスポーツクラブの育成が大事。現在の加入率が1%~2%、地域のこれからの10年を見据えた場合、生涯スポーツが大事になってくるので行政と連携して、3%の加入率を目標に取り組んでいくことが必要。
- ・郊外地域でも高齢者のみの世帯（ひとり暮らし、二人暮らしが増えている）が増えており交通手段も無く外出が困難。現在は隣近所と協力している所もあるが、今後そのような地域が増えていくと考えられるので低額な小型バスの運行などが必要になる。
- ・津波対策からの観点から、沿岸部には防災行政無線があるが、設置場所の関係から聞き取りにくい所がある。特に湯野浜地区。海水浴客などもたくさんいるので早急な改善をしてほしい。有線で防災行政無線が付いているものがあるが、30~40年くらいたち劣化が目立っている。更新の補助をお願いしたい
- ・スポーツ活動は健康の保持増進、青少年の健全育成、地域づくり、アスリートの活躍は市民へ感動を与え勇気をもたらす効果もあり、一層の活動環境づくりへの支援をお願いしたい。
- ・不登校や引きこもりの児童生徒を減少させることは、将来の労働者や納税者の確保につながる。教育

相談や特別支援教育の充実、加えて、適応指導教室の充実や公設民営型のフリースクールの設置など、多様な学びの確保が必要と考える。

- ・閉校した学校施設の有効活用がなかなか進まないことに心を痛めている。難しいこととは思いますが、芸術家・作家・研究者を目指す若者に無償又は格安で提供し、U I J ターンの促進と定住者の拡大につなげることは出来ないものか。
- ・親戚の家に行くようなイメージの年代交流、老人が子どもに宿題を教えたり、料理を教えたりする場所として公民館や空き家を活用出来ないか。
- ・首都圏の大学への進学にとってもお金がかかるので、子どもも作れない人もいる。資金援助や寮がほしい。
- ・生徒数の減少に伴い、好きな部活動をやれない中学生が出てきている。
- ・鶴岡市にはインパクトのある子どもの遊び場がない。SORA I の完成に期待している。
- ・若い人には余裕が無い（時間的余裕も金銭的余裕も）人が多い。例えば子育て世代の人だと土日はスポーツ少年団に時間をとられて、平日は仕事をしているので、若い人は大変。

内的豊かさを重視し豊かな自然と歴史、文化の伝承

- ・歴史を伝えることは大事だが、時代錯誤になってはいけない。そういう意味ではきちっとした形で歴史資料・文化財・文化遺産をしっかりと発信していくのが必要。どうしても文化と言えなにかあれば切り捨てられるのだが、文化も経済も両輪で調和して初めてより良い社会になると感じている。地域の事を大切にする環境の整備も必要である。
- ・温暖化が進行しているので、庄内の沖合では魚がとれなくなったものもあれば、とりやすくなったものもある。環境の変化が激しい。農業についての市としての考えが見えてこない。考えがあるのなら教えてほしい。
- ・外国人から見た、鶴岡の自然と歴史、文化の価値を積極的に海外に向けて発信する施策を積極的に展開していくべき。現在、観光物産、食文化推進等で活躍している人材の意見や発想を大切にするとともに、さらに外国人を雇用していくことが必要ではないか。
- ・文化財のデジタルアーカイブ促進、学校のPC等で子供たちが気軽に使える環境を作る。
- ・豊かな森林の保全継承のため、スギ人工林からの広葉樹林へ転換できないのか。

「循環」をキーワードとして重視

- ・化石燃料の多用は良くないと思う。鶴岡市でも再生可能エネルギーやゴミ処理施設など地域の生活環境に配慮してほしい。
- ・最終処分場がすでにもう数年でパンク状態になると聞いている。分別方法はもっと細かくできるだけゴミを出さないように早めに切り替えていく必要がある、このまま高齢化が進むと分別の細分化が不可能になってしまうので、早いうちにもっと分別を進めるべき。
- ・焼却炉が更新されると聞いているが、焼却炉の熱を熱交換機で地域冷暖房を模索する等、出来るだけエネルギーを無駄にしないようにしていただきたい。

対応から本格的国際都市へのシフト

- ・国際都市と名乗るからには、人口や経済や政治など、さまざまな条件が必要となる。それで初めて市民の生活が豊だということができ、国際都市と名乗ることができると思う。広がり過ぎている気がする。国際都市と名乗る前に足元を固めた方が良くはないか。それを基にしてさまざまな施策を考えて行けばいいのではないか。
- ・いつからシフトしているのかという疑問がある。鶴岡の特徴が何かと考えた時に「いろいろものがあること」と言うのが考えられる。農業、林業等色々あって海もあり山もありと大変だとも思うが、それが良いところではないかと思う。いろんな魅力的な資産があるということを考えないといけない。まちづくりで期待することは暮らしていて楽しい、この街に住んでいてよかったと思うこと。今ある魅力をアピールして、いかに周りから人を呼び込んでくるのか、豊富な資産があるので、整理して活かしていくのが大事だと感じる。強みを更に強くしていくことが必要。
- ・英語学習や、外国人子女の学びの場の確保については当然実現してほしい。
- ・ニューカレドニア、ニューブランズウィックなどの姉妹都市や友好都市などへの生徒の派遣・留学・交流を拡大すべき。また、交流する都市自体を増やすことも検討すべき。
- ・他の都市との人的な交流から経済交流へと拡大・発展させていくことが期待される。

コンパクト+ネットワークによる自立分散型社会の実現

- ・コンパクトなまちづくりについて、空洞化はもう進んでしまったものだと考えている。きちっとした制度を設けないともたなくなるのではないか。郊外地の課税、中心部の再開発に優遇するといったことを考えて行かないといけない。
- ・今後、中心市街地は少子高齢化、人口減少により、空き家・空地が大規模に発生すると想定される。都市景観や都市計画上の課題となるのは避けがたく、市街地縮小時代の対策が急務である。

オンリーワンを目指すプロジェクトの実施

- ・松ヶ岡に行く機会があった。観光面で頑張っていると思う。日本遺産にもなったのでこれをもっと生かすために、地元の鶴岡市民にもっと PR をしていく必要があるのではないかと思う。口コミでいろんな人に伝えるためにも地元の人が必要。食文化の面も含めて地元の市民にもっと PR していく必要があると感じる。10年かけてでもやる必要がある。
- ・松ヶ岡に対する交通網の整備を考えてほしい。どうやって行けばいいのか分かりにくいので、誰でも行けるような状況にしてほしい。
- ・計画を立てるときはなんでもまんべんなく、そつなく立てているが、より具体的な計画の方が市民にはわかりやすいのではないか。何が一番重要なのか、シンプルな計画が大事だと思う。
- ・鶴岡のラーメン文化はすばらしいので、昔ながらの中華そばを鶴岡のソウルフードとして発信した方が良い。

少子高齢化社会への対応

- ・少子高齢化社会によるデメリットが具体的でない。例えば10年後に介護保険料がどのくらいかわって

今のサービスが継続できるのかなど、市民が理解していかないといけない。市民に知ってもらうことが必要。

既存の商業形態の変化に対応

- ・商店街の衰退が進み、今は通信販売も増加してきており、商業は劇的に変わると思う。大型店舗も売り上げが減少しているし、そういったことへの対応も具体的に考えていかないといけない。都市計画も次々に変わっていくはず。

小規模災害時の対応の強化

- ・先日、温海地域の土砂災害では、公民館が避難所となったが、食料の確保、人員配置が難しく、どこが何の役割するのか、わかりづらかった。自主防災主体での避難所運営をする際の訓練の実施や、災害発生場所の見守り担当機関や避難所に常駐する市職員の確保、消防団、ライフライン業者とのミーティングの必要性を網羅できるような訓練の実施が必要である。

防災食料の備蓄

- ・小規模災害時、提携先より食料が届くまでのつなぎ分の食料の備蓄を市負担で実施してほしい。小規模災害時、自主防災の全額負担で避難所運営するのは問題がある。

鶴岡のPR

- ・畑を耕作している人が多く、同じ時期に同じものを作って余らせている。首都圏や市内の食に困っている人に新鮮な野菜をおすそ分けして、フードバンク事業として鶴岡をPRしたらどうか。
- ・友人の料理人に良い食材があったら紹介してほしいと言われるが、なかなか届けられなくて困っている。そんな時住民が市に相談して、セールスマンを料理人の所へ派遣できないか。市民のネットワーク網はすごいので、市民もセールスマンとしてアピールしやすくなる。

その他

- ・鶴岡市は市街地から山間地域そして海岸地域と広範な地域の自治体であり、それぞれの地域に住み続けてきた意義と役割を考えれば、安心して住み続けられる環境と行政の支援が必要である。
- ・9つの着眼点について、言葉が難しいものがありわかりづらかった。行政のみなさんからすれば通常使用している言葉だと思うが、立場によってはなかなか慣れない言葉もあって、一つずつ調べないと分からない所もあった。市民が見てイメージがわくようなものでないと。もっと単純で簡単なキャッチフレーズのようなものでいいのではないか。
- ・新しいものを作り出すことはなかなか難しいと感じている。ただ、既存のものを組み合わせて何か新しいものを出来ないかという点で、考えてみたらどうだということを職場でも言っている。組み合わせ、コラボ、そういった視点が今後非常に大切になる。
- ・社会的なリーダーと若い世代が語り合う機会を大切にしたい。若者の考えを受け止め、抱き込みながら地域社会づくりを進めたい。